

笹田トヨ子の日本共産党23回党大会報告

1月13日から日本共産党23回大会が開かれ、笹田トヨ子議員が代議員として参加しました。党大会5日間の様子をお知らせします。

会場・伊豆学習会館は

会場は、伊豆の学習会館で、熱海駅から2つ目の伊豆多賀駅で降りて、30分ぐらい山を登ったところにあります。

建物は鉄骨がそのまま見える質素なもの。しかしそこに1000人以上の代議員と大会役員・スタッフそして国内外の来賓者の熱気であふれていました。

印象に残ったのは特に山登り、急な斜面を登っていき、もう限界と思ったところで学習会館に到着。高齢者や病弱な方など希望すれば車で行くことができます。地元の党員の人や協力者の方が、要所要所で道案内に立ち、励ましてくださいました。この山登り、5日間も大丈夫かなと不安がよぎるが、終わってみれば、久しぶりによく運動したという快感が残りました。

世界各国から来賓者多数！

初日、外国からの来賓者の紹介がありました。14カ国24名、また14の大使館の15名も参加され、国際色豊かな大会でした。共産党の野党外交が実って、今まで交流のなかったイスラム諸国からも、また長年途絶えていたアメリカ共産党からも参加。ソ連が解体し、その重石が取りわれ、ソ連の干渉と闘ってきた日本共産党の大会、特に綱領の改定という歴史的な党大会を正面から受け止めようという関心の高さの現れを実感。来賓の多くの方々は、5日間最後まで参加されていました。

青年のガンバリが目立った大会

代議員1013人、その内青年は約1割、しかし発言者は多く、青年の頑張りが目立ちました。イラク戦争反対の闘いに多くの青年が参加し、イラク戦争が始まって、一時的に挫折感を持ちながらも、本当に変えなければならぬこの日本社会の問題は何かなど等、いきいきとした青年の活動報告がありました。彼らの話を聞いていて、70年安保の私の青春時代を思い出していました。

43年ぶりに共産党綱領の改定を行いました

今回の党大会の主要なテーマは、綱領の改定でした。綱領とは、政党が何を目標に活動しているのか、この日本をどう変えようとしているのか、そのみちすじを明らかにしたものです。

共産党は、43年前に決めた綱領を発展させ、今回全面改定となりました。しかし、43年前に規定した日本の「対米従属」は今日ますます鮮明になってきています。

日本共産党はどのような社会をめざしているのか！

私が議員になってから、何人かの方から善意で「党名を変えたほうがよい」というアドバイスをいただきました。共産主義・社会主義といった言葉に、みなさんはどのようなイメージを持っているのでしょうか。スターリ

ン以降の旧ソ連とか、今の北朝鮮をイメージされる方もあるかもしれませんが、全く違います。旧ソ連や北朝鮮は日本共産党が言う社会主義・共産主義とは全く無縁です。そして最も厳しくソ連や北朝鮮と闘ってきたのは日本共産党でした。

日本共産党のめざしている未来社会は、今の北朝鮮のように、また戦前の日本のように、誰か特定の人だけが得をする特権階級はありません。みんな自由で平等です。また今の資本主義の社会のように、資本のあるものはより金持ちに、金のないものはより貧乏にといった貧富の差は生まれません。生産者が主人公となり、生産量が豊かになれば、それだけ労働時間が減り、人々はより自由時間が増えて、人間の全面発達に使えます。

日本共産党は議会制民主主義を大切にします

未来社会への通り方も、一足飛びに社会主義・共産主義の社会に行くわけではありません。まず今の国民が苦しんでいる大元を取り除く事業を行うことが大事で、大企業・財界の横暴やアメリカの対日支配にメスを入れる事業が必要になってきます。そして、議会制民主主義を通じて、国民の大多数の支持を得て、その政策を実行し、民主主義的なルールを確立していきます。議会制民主主義を通して行うのは、社会主義・共産主義の社会になって同じです。

以上のような内容が、日本共産党の綱領に書いてあります。お近くの共産党の事務所又は党員に言って頂ければ綱領をお届けします。是非お読みください。